

最優秀賞 「祭りガールズ」山田 貞司（苫小牧市）

第21回明日萌の里 フォトコンテスト入賞作品



審査員講評

明日萌の里フォトコンテストは今年で21回目を向かえました。昨年は祭りの悪天候などの影響もあり、応募点数がやや少なかったのですが、今年は昨年を上回る応募点数があり安堵しているところです。

今回も100点以上の作品を拝見しましたが、やはり夜高あんどん祭りの作品が多くありました。反面、米どころということもあり田園風景や蛸など自然風景写真も多くエントリーされていて、皆さん積極的に撮影されているのがよくわかりました。また、JR部門が新設されたということで、大変興味深く審査させていただきました。

21回目となるコンテストで栄えある最優秀賞を獲得した苫小牧市の山田貞司さんの作品「祭りガールズ」は、一次審査の時から目をひいた作品です。今までとは全く違う発想とアングルで、祭り女子達を真下から見上げて撮影しています。しかも、参加した女子達はとても楽しそうです。元来カメラとは、このように楽しげな人達を記録するという意味で進化してきたところもあると思います。いわば写真の原点のような作品ではないかと思います。

優秀賞の梅澤勇二さんの作品もとてもユニークです。超広角レンズのデフォルメを上手く引き出して東屋とうろこ雲を撮影しています。東屋の下では町の方でしょうか、リラックスしながらにやら語り合っています。ほのぼのとした中にも計算された要素が沢山詰まっている作品です。

同じく優秀賞の「夏空燃ゆる」を撮影された地元のベテラン野 佳昭さんは、定番の夜高あんどん祭りの作品です。数多いお祭りの中でも迫力、シャッターチャンス、構図ともに群を抜いている作品でした。やや引いて祭りの人達を取り込んだことで、スケールの大きさも表現できていると思います。

JR部門での優秀賞、能登喬也さんの作品は文字通り北海道の冬の厳しさの中をひた走りする列車を、ストレートに表現しています。

他、入選5作品、JR部門入選2作品、奨励賞10作品も秀作揃いでした。

奨励賞の小山憲紀さんの作品「激突」は、今回の優秀賞「夏空燃ゆる」の作品とほぼ同位置、同時間帯に撮影されたものと思われます。どちらも優れた作品でしたが、祭りの人達の動きをやや広めに取り込んだ「夏空燃ゆる」に軍配が上がりました。

今回もあんどん祭りの作品が数多く出展されていましたが、21回目ともなると、どうしても以前と似たような作品が多くなってきます。回を重ねるごとにお祭りで賞を取るのはかなり難しくなってきます。それにはやはり自分なりの目という心の表現が必要になってくるのではないのでしょうか。次回の応募作品に期待したいと思います。

最後になりますが、21回という長きの開催を重ねられている主催者と関係者の皆様のご努力に敬意を表しますと共に、改めて受賞者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

2019年11月 3日
「明日萌の里フォトコンテスト」審査員代表
写真家 菊地 晴夫

入選



「もうすぐ収穫」金子 道雄（苫小牧市）



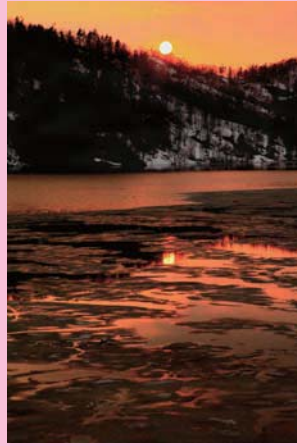
「夜高あんどん」神保 吉数（新ひだか町）



J R部門 「ようこそ沼田へ！」
石丸 雄理（札幌市）



J R部門 「稔りの田園を ～疾走」
野 佳昭（沼田町）



「残照の湖」野 佳昭（沼田町）

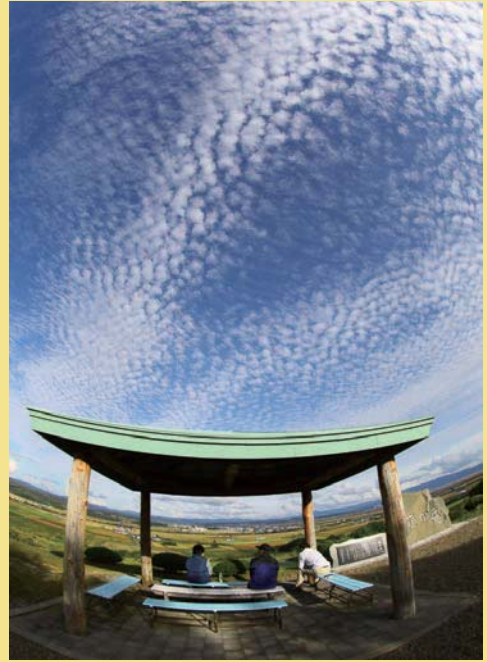


「イヨイヤサー！」
岸本 理恵（帯広市）



「祭りの男」
平野 眞佐男（札幌市）

優秀賞



「ふる里語るうろこ雲」梅澤 勇二（札幌市）



「夏空燃ゆる」野 佳昭（沼田町）



J R部門 「雪化粧」能登 喬也（札幌市）

◆奨励賞◆

「神輿の人」

今井 昌（札幌市）

「クラウド発車」

金子 道雄（苫小牧市）

「激突」

小山 憲紀（苫小牧市）

「よいやさよいやさ」

小山 憲紀（苫小牧市）

「主役の行進」

斉藤 恵一（美瑛町）

「源・平ホタルの憩い」

野 佳昭（沼田町）

「ホロピリ湖の朝」

野 佳昭（沼田町）

「紫陽花萌える」

山岸 真理（名寄市）

「笑顔咲く」

山田 貞司（苫小牧市）

「秋色を走る」

龍至 伸一（深川市）